

バスやタクシーは移動に加え、地域住民の交流や文化芸術の表現活動など幅広い目的の多機能型サードプレイスの役割を果たす

概要

自動運転の普及により、現在よりも車両内のスペースが広く確保できることに加え、乗務員は運転業務から解放され、運転業務以外の新たな役割を担う。余白が生まれたバスやタクシーの車内がライブハウス、映画館、公民館、病院などあらゆる用途で活用可能となることで、移動を目的としたユーザーのみでなく、バスやタクシーに乗車すること自体を目的としたユーザーも乗車するようになる。これにより、バスやタクシーに人が集まるようになり、地域の情報も自動的に集約されるようになるとともに、公共交通を起点とした多世代間での交流が一般的となる。

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

自家用車が普及している中で、バスやタクシーを利用しない
地域の情報を手軽に収集できる手段が少ない



これからは

公共交通が双方向型のコミュニケーション拠点となる